

Nice Town
Good People

こんにちは 町会です

中央区

第11号



救護訓練も行われました

京橋川の部連合町会



銀座・中央通りにはしご車も出動

みんなで広げる地域の

和

明るく楽しい

コミュニティづくり

晴海部連合町会



明るいうちから大勢の人々にぎわう盆おどり



町会・自治会等の皆さんによる緑日は黒山の人だかり



大江戸まつりでも大人気の焼とうもろこし

日本橋川の部連合町会



1,700本のとうもろこしの皮むき

**さあ、あなたも
町会・自治会活動に
参加しましょう！**

下町情緒あふれる長屋と近代的な高層ビルが共存するまち、中央区。集合住宅の増加に伴い、新たに区内で生活を始める方が増えました。平成二十一年一月現在、十万五千人を超え、まちには、子どもの声が響き、にぎわいと活気がみなぎっています。

より良いまちを築き上げるためには、そこに住む人々が協力し合うことが重要です。そして、その中心的役割を担っているのが町会や自治会です。住民同士の親睦を図る各種イベントのほか、子どもたちの健全な育成、高齢者の支援、防災・防犯活動、リサイクルをはじめとする環境活動など、住み心地の良いまちをつくるため、さまざまな活動を展開しています。

「こんにちは町会です」では、これまで各町会・自治会の活動を紹介してきましたが、今回は複数の町会・自治会で組織されている連合町会による事業と、子どもたちの遊び場である児童館と地元町会との関わりをご紹介します。

さあ、あなたも町会・自治会の活動に積極的に参加して地域の輪を広げ、活力あるコミュニティをつくりていきましょう。

京橋三の部連合町会

京橋三の部連合町会
森 連会長

大規模な震災訓練で町会への参画意識をアップ

日本を代表するお洒落な街・銀座。その中でも世界の流品店や伝統の老舗、夜の社交場が集中する銀座五丁目から八丁目までの町会で構成されているのが京橋三の部連合町会です。

「銀座全体ではブランド店の進出でにぎわっていますが、老舗の店が減りつつあり、なかなか町会に入ってもらえないという問題もあります」と、銀座西六丁目の町会長であり、連合町会の会長でもある森さんは銀座の現状を語ります。銀座は他の繁華街と比べて安全な街というイメージがありますが、それを牽引しているのは連合町会です。ヒラ配りや違法駐車防止について警察に要望するなど積極的な働きかけをしています。「各町会には町会長がいますから、町会長との話し合いで意見を吸い上げてまとめることが連合町会長の仕事になります。人間と人間の融和が必要ですから、そういうことにも気を使います。そして、町をきれいにしよう、安全にしよう、明るくしよう、清潔にしようと呼びかけています。それは中央区が全部やってくれるのではなく、町の人間の力に



担架で運ばれてきた負傷者を救護する訓練

よるものです」と森さん。

銀座には、京橋三の部連合町会のほか、銀座一丁目から四丁目までの町会で構成する京橋一の部連合町会、銀座の東側の町会で構成する京橋四の部連合町会があります。そして、町会のほかに通りごとの通り会という組織があり、そういう組織を結集して全銀座会がつくられています。連合町会長は、町会の意見をまとめて全銀座会に提出する役目も負っています。そこから中央区や東京都へと意見を提出していくこととなります。

この全銀座会を中心に「ロムナード銀座、ジャズフェスティバルなどさまざまな催しが行われていますが、中でも銀座の力を結集した行事が、二十七年目を迎えた震災訓練です。大きな百貨店や企業、小さな店がひとつになって、銀座の町ぐるみで開催されています。中央通り、晴海通りを交通規制し、はしご車やレスキュー隊、ヘリコプターを総動員した大掛かりな訓練。約五千人を動員し、担架搬送、初期消火、救護などの訓練を行うことにより、参加意識をアップさせています。

実はこの震災訓練は、森さんが京橋消防団第三分団長を務めていたときに提案して実現したものです。現在、森さんは京橋消防団長を務めるとともに全銀座会の防災対策委員長も務め、震災訓練の指導的な立場を担っています。「地震がおきても安心できるまちをつくることこそが本当のおもてなしではないかと提案し、昭和五十七年に第一回目を行いました。やはり、銀座を愛しましょうと訴えることが大事です。銀座をよくするため、百貨店などの大

きな事業所からも出てもらおうというしています。大きな行事を行うには、そういう人たちのノウハウを活用することも必要です」と語り、まちぐるみの行事であることを強調します。

銀座には、駐輪場の設置、自転車の通行、バイクの路上駐車、交番の整理統合など、さまざまな問題があります。「まちをもっとよくする、安全にするための事業を中央区に提案するための窓口として連合町会が活動することが重要なのではないだろうか。そのためには、なるべく多くの方に町会に加入していただくたいですね」と、森さんは町会への参加を呼びかけます。



震災訓練を取りまとめる森会長



震災訓練には約5,000人参加

日本橋七の部連合町会

日本橋七の部連合町会
安西暉之会長
石川憲美さん

大江戸まつりに焼とうもろこしの模擬店を出店して一致団結

日本橋七の部連合町会は、日本橋地域の中で最も京橋地域に近い兜町町会、茅場町二丁目町会、茅場町三丁目町会、三丁目の町会が構成されています。この界隈は、江戸時代には茅職人や鎧、兜の職人が多く暮らしていた町です。戦後は証券取引の中心地として発展してきま

多くの証券会社が軒を連ねています。地価の高騰などの影響により人口が減少し、町会の加入者が減ったことも大きな問題です。若い人が少なくなり、住民の年齢層が上がっています。また、近年はマンションが増え、住民の融合も課題となっています。それぞれの町会が実施している町会旅行には、地域に溶け込んでもらおうとマンションの住民にも声を掛けています。「町会としては新しい人に入ってほしいので、いろいろな呼びかけをしています。防災、防犯をどうするかを真剣に



とうもろこしの皮むきは大勢で協力

考えて、ぜひ町会に参加してほしいと思います」と安西さんは町会への加入を呼びかけます。こうした地道な努力の結果、最近では若い人の加入も増えてきています。実際に町会の行事に参加してみると、下町の面白さを味わうことができ、参加者の評判も上々です。学校の行事にも連合町会が積極的に協力し、さまざまな町会行事に子どもたちが参加できるようにしています。子どもたちが参加すると、親同士が仲良くなるという効果もあるようです。

連合町会の役割について安西さんは、「町会の加入者が減り、茅場町も、兜町も、単独町会では町会行事ができないのが現状です。このため、三つの町会をまとめ、主な行事は連合町会で一緒にやることにしています」と語り、三町会が協力して行事を行っていることを強調します。

三町会の「コミュニケーションを図ることを目的に、毎年行われているのが大江戸まつりへの参加です。北海道から良質のとうもろこし千七百本を調達し、連合町会として焼とうもろこしの模擬店を出店しています。「親睦と友好を図るために大事な事業です。楽しみながら三町会が致団結できる行事でもありません」と安西さん。とうもろこしの皮むきなど下ごしらえを女性たちが行い、男性たちが会場に運びます。焼きの作業と販売は初日が女性、二日目は男性と分担し、盆踊りもしかり楽しめるように工夫しています。住民同士の親密さが増し、和気あいあいの雰囲気が生まれま



日本橋七の部連合町会の皆さん。一番左が安西会長、右から2番目が石川さん

す。焼とうもろこしは一本三百円で販売していますが、生のとうもろこしなので、甘みがあつてすごくおいしいと評判です。他にも連合町会としてさまざまな活動をしています。そのひとつが消防団との共催で毎年開催している防災訓練です。各丁目で体験できるよう工夫し、土曜日にもかかわらず企業の参加も増えてきています。また、二年に一度の山王日枝神社の祭りは、それぞれの町会に神酒所を作り、平成十八年からは連合町会として一緒に神輿を担いでいるということ。このほか、夏休みにはラジオ体操、年末には消防団と一緒に防火、防災、防犯のための歳末警戒を実施するなど、活動を重ね、地域の和を広め深めています。



おいしいそうな香りが漂う焼とうもろこし

晴海連合町会

盆おどり実行委員会
滝浪 誠会長
風間慎輔事務局長

連合町会だからこそできる 晴海を挙げての盆おどり

住民が生活するようになって五十年余りという晴海地区は、高層住宅が立ち並び新興住宅地。ここには十三の町会・自治会がありますが、賃貸住宅が多いにもかかわらず、町会・自治会加入率が非常に高いことが特徴です。

晴海連合町会のはじまりは平成十二年に結成された晴海町会自治会連合会です。「晴海トリトン」ができたとき、住民から大手企業とどうやって接してい

けばいいかわからないとの不安の声が上がり、そこで、地域の人たちが一体となり、お互いに理解しながら助け合い、行政との連携を深めて、さまざまな問題をしっかりと解決していくために、一年半かけて連合会を立ち上げました。その後、晴海連合会と名称も変わり、構成団体も増えました。そして平成十九年に現在の晴海連合町会となりました。晴海連合町会盆おどり実行委員会の会長を務める滝浪さんは、連合町会設立の経緯を説明します。滝浪さんによると、連合町会ができたことにより行政とのつながりが深まり、防災・防犯



高層ビルのふもとで行われる盆おどり

や青少年地区委員会などにおいてさらなる活動が展開できるようにになったそうです。

その中でも、今回で十四回目を迎えた「晴海盆おどり」は、連合町会のメリットである、各町会・自治会の連携をいかして、晴海連合町会の全構成団体が参加する大規模なイベントとなっています。

晴海連合町会盆おどり実行委員会事務局長の風間さんは、晴海の盆おどりが始まった当時を、「晴海に住んでいる皆さんは、新しいことを取り入れることに対して抵抗がないので、今まで細々と行ってきた盆おどりを、連合町会全体でシステム化して、大規模に実施するにあたって、すんなりと受け入れてくれました」と振り返ります。

平成十九年は七月二十八日・二十九日の両日、晴海中学校を会場として開催され、約五千人が参加しました。今回からPTAやプレレィも参加し、住民の参加意識を高めることにも成功しています。

「晴海盆おどりを始めた理由は、地域全体の活性化を図るだけでなく、将来まで晴海を発展・向上させたかったからです」と滝浪さん。

晴海地区は開発が進むと人口三万人のまちになるといわれています。それを踏まえたまちづくりのために、連合町会の要望により、機能的な新しいまちづくりをしていくためのデザイン協議会も立ち上がりました。また、晴海を開発する建築会社と騒音の出にくい工事の実施についての協定の締結や、新たなビルやマンションの敷地周囲六メートル幅のセフトバックと緑化を求めています。



主催者として挨拶する滝浪実行委員会会長
左は川井晴海連合町会長

滝浪さんは今後の決意を次のように述べました。「区画整理で晴海二丁目の緑地帯が消滅する話が出たときも、晴海の財産だと要望して三分の一を残してもらえました。また、集合住宅や高層ビルが集まる晴海では、防災・防犯において、住民と企業が協力して取り組むことが重要です。このように、さまざまな問題に対して、連合町会ができたからこそ、晴海全体で取り組むことができるのです。私は、こよなく愛するわがまち「晴海」という気持ちで常に胸に抱いています。これからも、連合町会を中心として、しっかりとしまちづくりをすすめていきたいと思えます」



子どもたちも楽しみにしている晴海の夏の風物詩

地方自治法施行六十周年記念総務大臣表彰受賞



左から加藤副会長、柴田会長、成川相談役

日本橋六の部連合町会は、「首都東京の顔」ともいえる東京駅八重洲口に面しています。この地域では、元の町会の方々だけではなく企業の方々も参加して、平成十三年から月一回の防犯パトロールを実施し、不法看板の撤去などを行っています。また、平成十六年には他の地域に

先駆けて、防犯カメラ四十台を設置しました。さらに、設置するだけではなく、毎日二回から三回、防犯カメラが作動中であることを放送して、犯罪を防止しています。

実際に、防犯カメラ設置区域内で発生した傷害事件と放火事件の検証においては、被害者・加害者の行動特定や犯人検挙に効果を発揮しています。

このようなまちを挙げての取り組みが、地域の治安を回復し、コミュニケーション機能の向上に貢献したとして高く評価され、日本橋六の部連合町会として、地方自治法施行六十周年記念総務大臣表彰の団体表彰を受賞しました。

団体功労者総務大臣表彰受賞



表彰状を手にする柴崎仁久会長

十一月三十日、総務省において、平成十九年度地縁による団体功労者総務大臣表彰式が執り行われ、受賞者である月島連合町会の柴崎会長が式に臨まれました。

柴崎会長は、昭和五十五年から月島三之部町会会長として、安全・安心なまちづくりの実現のために、防

災訓練や年末の夜警を先頭に立って実施されています。

また、平成二年からは月島連合町会会長として、月島地域のさまざまな問題の解決に取り組まれるとともに、大江戸まつり実行委員会の副会長を務められ、大会当日には縁日を出店されています。

さらに、中央区町会連合会会長を延べ六年務められ、平成十八年には、東京都町会連合会の常任理事として、区政のみならず都政においても大きな役割を果たされています。

このような長年にわたる地域活動の推進と住民自治の発展における功績が称えられ、今回の受賞となりました。

コミュニティふれあい銭湯が
毎月二回に！
ふれあいデーは100円デー

ふれあい銭湯が四月から毎月第二金曜日に加え第四金曜日も開設になります。

また、入浴料金が一人百円になります（ただし、敬老入浴証持参者と小学生以下は無料）。

みなさんご利用をお待ちしています。



開設日 毎月第一金曜日・第四金曜日

第二金曜日は、季節にちなんだ趣向で浴場を飾ります。

時間 各浴場営業時間

場所 中央区内公衆浴場(銭湯)

十浴場

対象者 中央区内在住・在勤者

入浴料金 一人百円

ただし、敬老入浴証持参者と小学生以下は無料

問い合わせ先

区民部地域振興課自治振興係
電話(3546)5336

地域で見守る子どもたち

築地児童館 各町会の青年部が児童館の活動を全面的にバックアップ



夏祭りには各町会が模擬店を出して協力

京橋築地小学校、明石小学校の児童館が利用している築地児童館。中央区青少年対策京橋六の部地区委員会は、各町会の青年部から委員を選出することによって委員会の若返りを図り、築地児童館の活動を各町会の青年部が全面的にバックアップする体制を整えています。

築地児童館では毎月さまざまな行事を行っています。その中でも最大の行事と言えるのが毎年八月最後の日曜日に児童館とあかつき公園で行われている夏祭りです。約四百名の子もたちが参加する大イベントで、平成十九年は八月二十六日に開催されました。一輪車クラブやダンスクラブの発表会、お化け屋敷、フェスティビング、ゲームコーナー、折紙コーナーなど、さまざまな催しを子どもたちが運営していますが、各町会もそれぞれ十人から二十人がボランティアとして協力しています。ゲームコーナーや折紙コーナーを手伝うととも



かき氷の準備中

に、各町会がそれぞれ出店し、焼きそば、かき氷、フランクフルト、水あめ、カットフルーツ、ジュースなどを子どもたちに無料サービスしたそうです。

「子どもたちが喜んでくれるのが一番ですが、自分たちも楽しみながら参加しようという姿勢で取り組んでいます」とのことです。町会の皆さんにとっても子どもたちと触れ合うことのできる楽しい行事となっています。

築地児童館の職員は、「児童館からもボランティアを頼んでいます。地域の人の力がなければ成り立ちません。できることがあればお手伝いします」と言っています。本当に助かっています」と、地域の皆さんに感謝の意を示します。築地の方々にお世話になっていることから、敬老の日には子どもたちが手書きでメッセージを書いたカードを作って、築地のお年寄りに贈っているというのです。

浜町児童館 「あかちゃん天国」で町会員が子育て支援



「あかちゃん天国」で活躍する黄色いエプロンの加藤さん

浜町児童館には、平成十九年七月から、三歳までの乳幼児とその保護者や妊娠中の方を対象にした子育て交流サロン「あかちゃん天国」が設置されました。「あかちゃん天国」とは、子育てに関する情報交換や交流を目的として区が設置したひろばです。また、育児に関する相談や助言も行っています。

このひろばでは、子育てに関する不安や悩みを解消するために、民生児童委員の皆さんが、毎週木曜日に相談にのっています。

九年前にわたって、日本橋地区の主任児童委員を務めている加藤恵子さんは「子育てのちょっとした悩みにも答えられる存在になってほしい」と館長に相談されて、お手伝いするようになりまし



文化祭で人気を集めた喫茶コーナー

た。利用の方が気軽に相談してくれたり、子どもたちも遊びに誘ってくれるようになりまし」と、あかちゃん天国での活動を楽しそうに話します。「お母さん方とは、町会のことやお祭りなどの行事の話もしています」と加藤さん。

十一月十七日には、子どもたちが中心となつて実施される浜町児童館文化祭が開催されました。ゲームコーナーでは、ボランティアの大学生が子どもたちの手伝いをし、折紙コーナーでは、女性会の方々が子どもたちにメダルの折り方を教えるなど、子どもから高齢者までが一体となつて楽しんでいました。こどもも、五名の町会員の方々が活躍していました。

喫茶コーナーを手伝っていた人は、浜町児童館ではいろいろな行事があるので、地区委員は何回かお手伝いをします。前回お手伝いしたときに参加していた子どもたちが私のことを覚えてくれていて、声をかけられると、お手伝いしている本当に良かったと思います」と、児童館行事に協力する喜びを語りました。

佃児童館 児童館行事を陰で支える町会員



安西さん達が警備する中、順番に望遠鏡をのぞく子どもたち

佃児童館では子どもフェスティバルや佃児童館祭など年間を通してさまざまな行事を行っています。なかでも佃独自の取り組みとして、十三夜の月を観察する月見会を行っています。

十月二十三日に行われた月見会には大勢の子どもたちが参加し、月についてのレクチャーを受けたあと、天体望遠鏡で十三夜の月を観察しました。子どもたちはクレイターがくつきりに見える月を見て、「こんな月見たことない」と驚いていました。

この行事を、安全管理や道具の操作などで陰ながら支えているのが、青少年対策佃地区委員会として活動される町会員の皆さんです。

佃二丁目町会の副会長で、中央区青少年対策佃地区委員会の副会長も務める安西隆さんは、児童館には、町会の子も私たちの面倒を見ていただいていますから、我々も児童館の行事に何かお手伝い



月のクレイターに子どもたちも興味津々

ができればと携わっています」と、児童館の行事に町会が積極的に協力している理由を説明します。

この日も、町会の皆さんが、子どもたちが安全に月を見ることができるよう、列を整理したり、池の周りではしゃぐ子どもたちに注意したりして警備をしていました。また、時間の経過とともに動いていく月を常に見ることができるよう、町会の皆さんで調整した望遠鏡を覗き込んで、子どもたちは大いに楽しんでいました。

町会の皆さんは、月見会のほかにも、夏休みに行われるセミの孵化見学会は、釣りに、子どもフェスティバル、児童館祭などにも協力しています。

また、餅つきや盆おどりなどの町会主催の行事や地区委員会主催のハイクには、町会内に住んでいる子どもにも限定せず、広く子どもたちへの参加を呼びかけています。取材の最後に安西さんは、我々も子どもたちとふれあうことが、とても楽しいです。子どもたちの健全な育成は私たちの大きな喜びです」と強調しました。